5月12日第三種郵便物認可　（日刊）大　崎

吉野作造記念館「ひと×つくる＝展」

来月21日まで　絵画や彫刻など販売も

「ひと×つくる＝展」が10月21日まで、大崎市古川福沼の吉野作造記念館で開かれ、絵画や彫刻、ジュエリーなど多彩な作品が訪れた人たちの目を引きつけている。

古川高出身で造形作家の姉歯公也さん(55)が高校や東京芸術大時代の友人、同僚らとともに開催しているグループ展。分野も年齢も違う23人のアーティストの作品約150点を展示している。

石を本物のマフラーや財布のように加工したユニークな石彫作品や、植物をモチーフにしたフェルトのかわいらしいオブジェなど、見慣れない作品の数々に子どもたちも興味津々の様子。

中には、家型の箱の丸いのぞき窓を見ると、光の加減で中の立体的な部屋の見え方が変わる作品もあり、大人も子どもも照明が当たる位置を変えながら何度も楽しそうにのぞき込んでいた。

また、姉歯さんが震災後に作ったという造形作品「海になった私」は、星々が輝くブルーの宇宙にこびとのような人物がたたずむ神秘的な作品で、訪れた人たちは立ち止まって感慨深げにしばらく眺めていた。

フェルト作品に見入る親子

作品は販売もしており、売上の一部を義援金として寄付。姉歯さんは、「気に入った作品を見つけて、身近でアートを楽しんで」と願っていた。

入館料は一般500円、高校生300円、小中学生200円。展示は午前9時から午後5時まで。月曜休館(祝日、振替休日の場合は翌日)。

22日は参加アーティストによる造形ワークショップ「ピカピカランタンを作ろう」を開催。和紙や針金、LEDライトを使ってランタンを作る。小学3年生以上対象。定員25人。

復興の願い作品に込め

美術造形作家　姉歯さんら23人　古川でアート展

気軽に楽しめる作品が並ぶ展示会場

震災復興や被災地とつながって一緒に何かを作り上げることを願うアート展「ひと×つくる＝展」が、大崎市古川の吉野作造記念館で開かれている。10月21日まで。

同市古川出身で美術造形作家の姉歯公也さん(55)が、母校の古川高美術部や東京芸大の同級生や先輩後輩、ギャラリー仲間らに声を掛けて実現した。がれき撤去ボランティアに参加するなど「何かしたい」と模索してきた芸術家が多く、姉歯さんを含む23人が絵画、彫塑、工芸など約100点を出品している。

作る楽しさ、もの作りによる人と人とのつながりなど創造の力や美術の原点をテーマに、「身近で楽しめるアート」(姉歯さん)がそろった。

発光ダイオード(LED)の豆球の光で海や宇宙のイメージが深みを増す青いオブジェや、森や星空を素朴に表現した絵のような陶器、マフラーや食材の質感まで伝わるユニークな石の作品、ガラス工芸や木版画など個性あふれる力作が並ぶ。

作品を見て「面白い」と驚く来場者も。購入予約ができる作品もあり、「かわいい。ほしい」と親にねだる子どもの姿も見られた。作品の売上金の一部は義援金に回す。

連絡先は吉野作造記念館0229(23)7100。